

<http://www.kamagasaki-forum.com/rojo/>

## 「なにわ路情」がめざすもの

- 野宿生活者の生活や声をとりあげ、ともに考える新聞です。
- 脱野宿のきっかけとなるような紙面づくりを心がけています。
- 今までのこと、そしてこれからのこと、いっしょに考えていきませんか。

# なにわ路情

野宿考ジャーナル  
3号(隔月刊)

## もう一度働くために

### 行動したよ

#### 路上新聞の配布と対話でうれしい報告

『なにわ路情』も今号で創刊3号目を迎えました。新聞は創刊準備号を含めてこれまで合計3回、大阪市内の公園や河川敷沿いで配布しています。配布には大学生も協力していますが、その一人佛教大学社会学部の横田潤一さんは主に河川敷の読者を担当し、配布活動を通じて十数名の野宿生活者のみなさんと対話が続いています。以下に紹介するのは、彼がその中で聞いたAさんの『なにわ路情』への感想と、Bさんの体験談のレポートです。

50代のAさんが淀川の河川敷で野宿生活を始めたのは、昨年の春ころからでした。現在はアルミ缶や銅線、古本回収などが収入源ですが、アルミ缶回収は競争が激しいため、ほぼ

毎日、古本回収に出かけています。ある程度の冊数を集めてから古本屋に売りに行くため、毎日収入があるわけではありません。

自立支援センターの入所を手続き

ただ、少し残念なのはもっと早く自立支援センターの詳しい情報が伝わっていただければ、と思わざるを得ないことです。Aさんも「本当だったら以前に自立支援センターのことを聞いたときに巡回相談員さんにつながしてもらいましたよ。自立支

詳しい情報を早く伝えていければ

野宿生活者のみなさんが日々の生活の中で考えていること、体験を通じて矛盾を感じておられることがありましたら、どんなご意見をください。そうした声が国や自治体への要望や提案につながります。みなさん一人ひとりの率直な言葉は『なにわ路情』スタッフの“かて”でもあります。

に帰ってしまうんちゃうか」と話します。自ら体験しているだけに、センター退所後のアパート生活を支える制度づくりの提言は、説得力がありました。

発行元  
**NPO元氣百倍ネット  
なにわ路情編集局**  
〒530-8090 大阪中央郵便局留  
NPO元氣百倍ネット  
「なにわ路情編集局」係  
tel 06-4397-9305  
e-mail rojoinfo@zap.att.ne.jp  
<http://www.kamagasaki-forum.com/rojo/>

## 紙面

- |                    |                          |
|--------------------|--------------------------|
| 1 「もう一度働くために行動したよ」 | 3 ホームレス自立支援法 第2段階へ       |
| 2 「仕事をつくれ！」の願い届くまで | 4 こちら路上医療相談室             |
| 2 体験いかし仲間の応援へ      | 4 ●編集後記●「なにわ路情」はここで配ってます |
| 3 日雇い・野宿の仲間を介護して   | 4 「カマヤんと八起さん」ありむら潜       |



## こちら路上医療相談室

やすだせいいちろう  
(医師 さいのり会のメンバー)

### 第4回 熱中症にご用心!



まだまだ暑い日が続きますが、皆さんいかがお過ごしですか?

要です。  
熱中症とは?

夏のこの季節は冬のように凍死するような危険はありませんが、逆に暑さのために体力が消耗したり、「熱中症」にかかる危険があります。毎年、残暑のきついこの時期を中心に熱中症で亡くなるかたが全国で後を絶ちません。とりわけ野宿生活者の場合は、十分な水分を取ったり冷房で涼をとったりしにくい状況におかれていたため、普通のひとより熱中症にかかりやすい状況にあります。蒸し暑いテントでの生活や炎天下での缶集めなどでは十分注意が必

全身の力が入らなくなったり、意識を失ったりします。軽い症状のときに気付いて適切な処置をとらなければ、短い時間で重症となります。風邪などをひいて体力が弱っている人や高齢者、高血圧・糖尿病・アルコール依存などの病気がある人は熱中症になりやすいと言われています。

熱中症を防ぐには?

この時期は缶集めなどの重労働は、できれば日中をさけるのが一番です。どうしても炎天下で作業をする場合には水分の補給をこまめにしてください。一度にがぶ飲みするより1

みなさん自身が熱中症にかかったら? みなさんの周囲の友人が熱中症の症状になった場合、すぐにしなくてはならないことは、できるだけ早く身体を冷やしてあげることです。木陰など、涼しいところに移動さ

せて、服装をゆるめて身体を冷やします。首、脇の下、足の付け根に太い動脈が走っていますからそこに冷たいものを押しあてます。うちわなどで風を送ってあげるのも効果的です。意識がしっかりしていれば水分を補給させてください。意識がない場合は危険な状態ですからすぐに救急車を呼んでください。救急車を呼ぶ場合でも、熱中症の患者さんを助けられるかどうかは、最初の20分以内に体温を下げてあげるかが勝負ですから、救急車が到着するまで身体を冷やしてあげてください。

残暑が厳しいおりですが、みなさんお身体にはくれぐれも気をつけてください。

## 編集後記

### 「なにわ路情」はここで配ってます

#### 『なにわ路情』の配布箇所 (創刊準備号、創刊号、2号)



久宝寺緑地や堺市の大泉緑地や大仙公園でも配っています。中ノ島や大川ぞいの毛馬・桜宮公園などの河川敷公園や、淀川・神崎川河川敷でも、手渡ししています。その様子は一面で紹介しています。あいらん/金ヶ崎方面には、今のところは拠点施設に常備しています。尼崎市や京都市でも、関係



## 「仕事をつくれ！」の願い届くまで 市役所前の野営闘争なぜ続く？



（野営テントで語る本田さん）

大阪・中之島の市役所前遊歩道で、釜ヶ崎反失業連絡会（反失連）が野営闘争を続けています。この場所ですでに7ヶ月以上、昨年9月下旬の府庁前で始まった時点から数えると1年近くにわたる行動です。要求目標には「55歳未満の特別就労事業」の実現を掲げつつ、当面の要求として緊急避難宿泊所（シェルター）や自立支援センターの増設も求めています。

られる炊き出しでは1回約800食分が用意され、市内各地から食事を求める人々が集まっています。反失連がその人たち約500人に直前の仕事と収入などを聞いたところ、日雇いは287人（平均53.3歳）、正社員は139人（同51.9歳）で、それぞれの現在の平均月収は働いていた当時の11.7%、6.5%に過ぎません。

圧倒的な要望は「仕事があほしい」でした。連日の座り込み、デモ行進などを背景に交渉した結果、大阪府は昨年末、「特別清掃事業（特掃）を1日20人枠増やし70人とする」と回答したことから、反失連の府

庁前野営テントは今年1月から大阪市の市役所前へ引っ越ししました。対市交渉では、55歳以上に限られる特掃とは別に、55歳未満の就労対策を軸としたセーフティネット（安全網）の確立を求めています。が、「失業対策事業はできない」とする市側と折り合いがつかず、野営が長期化しています。

反失連の共同代表である本田哲郎さん（60）は、「野宿者の望みは社会に貢献しながら生きることで、つまり仕事することです。従って、万難を排して行政は就労の機会をつくるべきだ」というのが私たちの運動

## 体験いかし 仲間の応援へ

大阪城公園の  
元野宿生活者が「峠の会」



「会費の徴収」「会代表の決定」などの議題を検討し、会を作るみんなの熱意と期待が伝わり興味深い会議でした。とくに進行役の越前さんと会員さんとのやりとりは手に汗握るバトルものであり、この中での意見交換では、闇金融の違法性や、お互い金銭の貸借を止めること、当会議の会費の使い方、使われ方、NHKの受信料や水道料金については福祉補助が適応されるなどの項目が話され、その後、世話人数名が決まりました。

この後フリートーキングで注目したことは、会員たちが提案したテーマがたいへん新鮮だったことです。その1つは（ボランティア・ヘルパー）の募集です。2

つ目は（公園夜回りボランティア）を提案されたことです。

①については、身体にハンディがある生活保護仲間に対し、買物や食事づくり、介助のヘルパーを主体的に支援しようという提案です。

②は週1回大阪城公園で今も野宿する人たちを夜間に訪ねてみようという会員たちの試みでした。

①・②とも会員たち自身がこれまで社会的支援の受手であったことに対し、これからは何らかの活動で還元していこうとする姿勢と、何よりも優しい人間へのまなざしが背後に存在しているという感動をもらったことでした。

「峠の会」の議事進行は必ずしもすんなり進んだわけでは

## 日雇い・野宿の仲間を介護して NHK放映「もう野宿にはもどさない」の現場と舞台裏下



NHK総合、2003年4月11日  
関西クロースアップ  
19時30分～19時55分に放映。  
翌日再放送。

はええかもしれないけど、やっぱり酒もある程度飲んでええのちゃうかな。肝臓わるかったYさんもな、酒飲んだら血圧が正常になるんや。それで魚好きなものやから、肝臓値がよくなったきたんや。薬飲んでないんやで。「良くなってるね」って言われて、薬だけちゃうねん。やっぱ食べることもやねん。

間さん まーね、いいことやね。あと気持ちとね。

笠 それとねえ。介護するとき、4畳半ほしいわな。違うわやっぱ。もの置いてたってやっぱ違う。やりやすいね。

間 奥行きが全然ないから…。

笠 今4畳半に住んでるけど、テレビ置いて、こう座れるもん。3畳やったら、掃除なんか、こんな格好でかがまんとできへん。あたってしまっくんや。

釜釜介護って言わ

「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」に基づく基本方針（案）が、7月3日に厚生労働省から発表されました。7月24日までにパブリックコメント

Ⅱ意見を寄せて欲しいということでした。役所や福祉事務所で無料配布しているわけでもないのに、ホームページを見れない多くのみなさんがこの案文に接することではできなかった

こととします。結構長い文章でしたが、全国調査（本年11月2月）→国の基本方針（現段階 7月31日に基本方針告示）→各自自治体は実施計画策定（9月以降）という段取りで、いま第二段階目にさしかかったことになりました。

この基本方針（案）次第で、府や市の実施計画の内容に影響が及びますので、いろんなところからの意見があげられたと思います。いくつかのポイントを紹介してみたいと思います。

ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法（案）が、7月3日に厚生労働省から発表されました。7月24日までにパブリックコメント

## ホームレス自立支援法 第2段階へ



ホームレスの人権尊重や尊厳の確保や、それにたいする啓発活動も、はつきりと書かれました。

一方で公共施設の適正な利用については、結局は排除として受けとれない文面も見受けられ、公共施設の管理者もまずはホームレスの自立

を支援するという観点を徹底すべきでしょう。

具体的施策については、努力や創意工夫は言われるものの、これを「やり直す」との明文がないので、どれだけ実現されるか不安視されます。とはいえ今後検討されるであろう内容として、次のようなものが期待されます。

就労では、「通所による自立支援センター利用」「技能講習や職業訓練の実施」「都市雑業的な求人情報の強化」。

居住では、「市営住宅の単身入居や優先入居」「民間住宅の無料低額宿所への転用」「緊急一時避難所にアセスメント機能をつける」「シェルター+自立支援センター的な中間施設の導入」「ダンボールなどで居住するホームレスに対する緊急支援」。

医療では、「巡回検診や健康相談の実施」「一般市民検診の受診」「無料低額診療事業の積極的活用」。